

平成 23 年 4 月 6 日
航空局技術部航空機安全課

サウスウエスト航空の 737 型機の事故への対応について

平成 23 年 4 月 1 日（米国時間）、サウスウエスト航空 812 便（フェニックス発サクラメント行、乗客乗員 123 人）のボーイング 737-300 型機が飛行中に、航空機の天井（客室中央付近）に穴が開き、客室内の与圧が失われたことから、目的地を変更して緊急着陸するという事案が発生しました。

このため、米国連邦航空局（FAA）は、4 月 5 日（米国時間）、B737-300、-400、及び-500 型機に対して、胴体上部の外板接合部について非破壊検査による繰り返し検査を求める緊急の耐空性改善命令（AD）を発行しました。

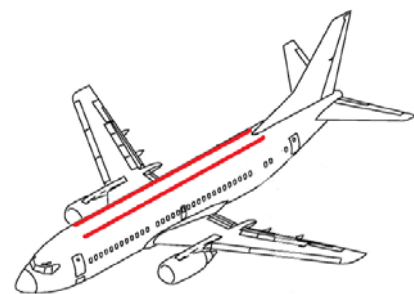
我が国としても、航空機の安全性を確保するため、本日付けで同様の内容の耐空性改善通報（TCD）を発行いたしましたので、その旨、お知らせいたします。

（耐空性改善通報の概要）

- ・サウスウエスト航空機で亀裂が確認された航空機胴体上部の外板接合部位のリベット穴の亀裂の有無について、非破壊検査による繰り返し検査を実施すること。また、亀裂が確認された場合には適切に修理を実施すること。

（我が国の検査対象航空機）

- ・ 機体総数：46 機
 - 日本航空グループ：16 機
 - 全日空グループ：15 機
 - 北海道国際航空：7 機
 - スカイネットアジア航空：8 機



— 検査部位

連絡先	
航空機安全課	島津、千葉
内線	50232、50202
直通	03-5253-8735